

にぎわい

日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信

会員だより



「江差港かもめの散歩道」 北海道 江差町

江差町のシンボル「かもめ島」に、海上遊歩道「かもめの散歩道」が7月3日に開通しました。

歩きながら自然と歴史にふれ、憩いを楽しめるように奇岩「瓶子岩^{へいし}」を目の前に眺められる入り口ゾーン、かもめ島の岩肌に触れられる岩見ゾーン、砂浜と玉石を敷き詰め水辺で楽しめる水遊びゾーン、海上吊り橋とテラスが特徴で景観の良い橋梁ゾーン、史跡、係船柱跡があり歴史に触れられる歴史ゾーンの5つにゾーニングしています。

総延長315mでそのうち橋の部分は100mで、アーチ部分は、白いかもめが2羽飛んでいるイメージで作られています。

落石の危険のあった遊歩道沿いのがけは、特殊コンクリートで補強し、車いすの方々がすれ違えるように1.8mの幅を確保し、夜間照明も付けています。

今後は、かもめ島を1周できる遊歩道も整備される予定で江差の新たな観光拠点として期待されています。



かもめの散歩道

レポート

「物流効率化に向けた港湾利用促進キャンペーン」の実施について

北海道の産業や生活を維持し、発展するためには港湾は必要不可欠な存在であり、北海道と海外との間で輸送される貨物の99.9%が、また北海道と本州等との間で輸送される貨物の90.7%が港湾を經由して輸送されています。このように北海道にとっても港湾は物流面だけ見ても大切な役割を担っていますが、一般の道民の方々には港湾利用による利益を間接的に享受しているために、港湾の重要性が身近に感じられないのと思われます。

一方、今後、北海道の経済や産業を活性化させるためには、港湾を含めた総合的な交通体系を配慮した物流の効率化に取り組むとともに市民に関われたうるおいのある港づくりを進めていく必要があります。そのためには、道民一人一人の港湾に対する理解が必要となってきます。

そこで、北海道開発局を含む各種団体は実行委員会を組織して、物流効率化に向けて北海道の港湾利用を効果的に促進させていくために道民に広くその重要性を理解してもらうことを目的としてキャンペーンを行っています。

輸送先	1,300トン積	1,300トン積
本州間	約1,900円	約1,300円
海外	約1,300円	約1,100円

港の仕事を知っていますか？

海外99.9% 本州90.7%

港のかしこい利用法で、得らしからっと豊かに!!

物流効率化に向けた港湾利用促進キャンペーン

主催：物流効率化に向けた港湾利用促進キャンペーン実行委員会

参加団体

協賛：21世紀への港づくり推進実行委員会

緊急呼びかけ

「日本海にぎわい・交流海道推進協議会」の今後

あなたは、続けたいですか？ それとも本当にやめたいですか？

会員の皆様、こんにちは。北海道ブロックの事務局を担当しています北海道開発局の梅沢と申します。この7月から皆様のお仲間に入れていただくことになりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、去る8月25日に本協議会の事務局担当者会議が第一港湾建設局（新潟）で開催され、出席してきました。今年で、本協議会は5年目を迎えることになりましたが、設置要項には、当面の活動期間を5年としており、そろそろ、次年度以降の方針を考える時期に来ております。さしあたり、先般、会員の皆様に今後の活動方針についてのアンケート調査を取らせていただき、その1次集計ができました。それによりますと、会員数121団体のうち102団体からの回答（回答率84%）があり、その内訳は、継続、あるいは内容を見直すなど条件付き継続が、43団体（42%）、一定の役割は終えたなどの理由で中止すべきが、59団体（58%）と中止派が過半数を占める結果となっております。

サロンのような雰囲気大切に、対岸を含めて、歴史ある日本海側各地域のゆるやかな連携を意図して設立された本協議会ですが、個人的には、このまま終わりにしてしまうのは、ちょっと勿体ないなという気持ちです。人と人がいて、そこに意志が働いて交流が始まる。街と港の活力も結局は、そこに住む人、交流する人が原点。どんなに情報機器が発達してもフェイス to フェイス、熱き志の直接のふれあいは、きっと普遍的な原理原則だと思います。いえ、21世紀は、改めて、その大切さが一層見直されるような気がします。

そこで、私の担当は北海道ブロックですが、「こんな形なら、続ける価値があるんじゃない。」「こんな情報交換ができるのなら、こんな直接交流ができるならおもしろいんじゃないか。」といったアイデアや本音の意見をもう少し直接聞いてみたいなと思っています。

是非、その他の地域ブロックの皆様も今一度、本協議会のこれからのあり方、発展型を自由な発想で議論してみませんか？

「だって、にぎわいのある街・海道のこれからを担っていくのは、結局、私たち一人一人ですから…」

（第20号 編集長 梅沢信敏）

編集・問い合わせ先

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

北海道開発局 港湾計画課 調査係内

TEL: 011-709-2311 (内線5617)

FAX: 011-709-2147

e-mail: ts-tiba@hida.go.jp